

## 航空特殊無線技士試験問題

(注) 解答は、答えとして正しいと判断したものを一つだけ選び、答案用紙の答欄に正しく記入（マーク）すること。

法規 12問 } 24問 1時間  
無線工学 12問

### 法 規

〔1〕 「無線局」の定義として、正しいものはどれか。  
次のうちから選べ。

- 1 無線設備及び無線設備の操作を行う者の総体をいう。ただし、受信のみを目的とするものを含まない。
- 2 無線設備及び無線設備を管理する者の総体をいう。
- 3 無線設備及び無線従事者の総体をいう。ただし、発射する電波が著しく微弱で総務省令で定めるものを含まない。
- 4 無線設備及び無線設備の操作の監督を行う者の総体をいう。

〔2〕 次の記述は、「航空用DME」の定義である。電波法施行規則の規定に照らし、 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「航空用DME」とは、960MHzから1,215MHzまでの周波数の電波を使用し、航空機において、当該航空機から地表の定点までの を測定するための無線航行業務を行う設備をいう。

- 1 飛行時間
- 2 見通し距離
- 3 方位
- 4 飛行距離

〔3〕 航空特殊無線技士の資格を有する者が、航空機局（航空運送事業の用に供する航空機ものを除く。）の25,010kHz以上の周波数の電波を使用する無線電話の国内通信のための通信操作を行うことができるのは、空中線電力何ワット以下のものか。  
次のうちから選べ。

- 1 50ワット
- 2 100ワット
- 3 5ワット
- 4 10ワット

〔4〕 総務大臣から臨時に電波の発射の停止の命令を受けた無線局は、その発射する電波の質を総務省令に適合するように措置したときは、どうしなければならないか。次のうちから選べ。

- 1 直ちにその電波を発射する。
- 2 その旨を総務大臣に申し出る。
- 3 電波の発射について総務大臣の許可を受ける。
- 4 他の無線局の通信に混信を与えないことを確かめた後、電波を発射する。

〔5〕 無線局の免許人が電波法又は電波法に基づく命令に違反したときに総務大臣が行うことができる処分はどれか。次のうちから選べ。

- 1 再免許の拒否
- 2 通信の相手方又は通信事項の制限
- 3 電波の型式の制限
- 4 無線局の運用の停止

〔6〕 無線局の免許がその効力を失ったときは、免許人であった者は、その免許状をどうしなければならないか。次のうちから選べ。

- 1 3箇月以内に総務大臣に返納する。
- 2 2年間保管する。
- 3 1箇月以内に総務大臣に返納する。
- 4 直ちに廃棄する。

# 航空特殊無線技士試験問題

## 法 規

〔7〕 無線局が、無線設備の機器の試験又は調整を行うために運用するときに、なるべく使用しなければならないものはどれか。次のうちから選べ。

- 1 空中線電力の低下装置
- 2 高調波除去装置
- 3 擬似空中線回路
- 4 水晶発振回路

〔10〕 義務航空機局の運用義務時間中の聴守電波の型式はどれか。次のうちから選べ。

- 1 A 1 A
- 2 A 1 B
- 3 A 2 D
- 4 A 3 E又はJ 3 E

〔8〕 次の記述は、航空移動業務の無線電話通信における呼出事項を掲げたものである。無線局運用規則の規定に照らし、 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

- ① 相手局の呼出符号又は呼出名称      3回以下  
② 自局の呼出符号又は呼出名称

- 1 2回
- 2 3回以下
- 3 1回
- 4 2回以下

〔11〕 1 2 1. 5MHzの周波数の電波を使用することができるのはどの場合か。次のうちから選べ。

- 1 1 2 1. 5MHz以外の周波数の電波を使用することができない航空機局と航空局との間に通信を行うとき。
- 2 気象の照会のために航空局と航空機局との間において通信を行うとき。
- 3 時刻の照合のために航空機局相互間において通信を行うとき。
- 4 電波の規正に関する通信を行うとき。

〔9〕 無線電話通信において、無線局は、自局に対する呼出しを受信した場合に、呼出局の呼出符号又は呼出名称が不確実であるときは、応答事項のうち相手局の呼出符号又は呼出名称の代わりにどの略語を使用して直ちに応答しなければならないか。次のうちから選べ。

- 1 誰かこちらを呼びましたか
- 2 反復
- 3 各局
- 4 貴局名は何ですか

〔12〕 遭難航空機局が遭難通信に使用する電波に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。次のうちから選べ。

- 1 遭難航空機局は、責任航空局から指示されている電波がある場合にあっては、当該電波を使用する。
- 2 遭難航空機局は、責任航空局から指示されている電波がない場合には、航空機局と航空局との間の通信に使用するためにあらかじめ定められている電波を使用する。
- 3 遭難航空機局は、F 3 E電波1 5 6. 8MHzを使用することができる。
- 4 遭難航空機局は、遭難通信を開始した後は、いかなる場合であっても、使用している電波を変更してはならない。